

2011/7/11

柏の景気情報（平成23年6月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成23年6月分）

○ 調査期間 : 平成23年6月21日 ~ 6月24日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	171	120	70.2%
建設	47	34	72.3%
製造	36	26	72.2%
卸・小売	49	38	77.6%
サービス	39	22	56.4%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成23年6月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは徐々に回復 電力不足への懸念高まる ▶

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.3(前月水準▲37.6)となり、マイナス幅が△4.3ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲36.0)、建設業▲26.4(同▲32.3)である。特に、サービス業はマイナス幅が△36.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲60.5(同▲48.7)、製造業▲30.

【建設業】からは、「大震災の影響が無くなりつつあるが、材料の仕入れ等では残っている。震災の復興、原発の不安で消費者は精神的に消費を控えている」、「柏市内の分譲住宅は他地区在住の見込み客がホットスポットを理由にキャンセルされる事例が複数出ている」、「福島原発で忙しい会社から工場製作の仕事が来ている。今年になって地元の仕事の一つも取れません。茨城の業者に人件費等で価格負けします」などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは「震災後諸物価の値上げや不良債権の発生が悪化を招いている」、「東日本大震災の影響を受けて停滞していた自動車関連が動きだしており、その点からは自動車関連部品の需要が増えると予想される」、「震災関係の仕事は納期が短く急ぎで単価も安く、なかなか手が出せない。その他全体的に仕事が少ない」などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「依然として個人消費好転ならず、この夏の天候により猛暑であれば悪化、平年並みであればやや好転の兆しあるか?」、「柏が放射能のホットスポットのため風評被害でネット販売が0に近い数字です。ニュース等で公園などで測定する映像が放送されるなどしており柏は危ないところと映ってしまいます。このままでは会社自体がおかしくなってしまいます。早く原発の収束をしてほしい」、「春から夏へ本来取引が活性化するところですが、今年の動きは地震と原発の影響から経営の圧迫感をもたらしています。野菜では品目別に入荷増減、単価安高のばらつきがあり取引上に苦労した販売となっています。相対的に数量取引高は減少にあります。消費者の選択もあり原発の収束を期待します」などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「ランチは入るが夜のお客様が少ない。夏の季節料理が出来るので夏の暑さに期待」、「放射能による食品に対する不安感を感じる」、「法人利用は次第に復調傾向にある。昨今柏地域の放射能濃度がTV等で話題となり人通りへの影響が懸念される」、「5月に比べ先行受注が戻ってきた。円高の影響もあり海外旅行が好転。この個人消費の動きを追うように今後法人需要が夏以降に好転してくるものと推察される」などの声が寄せられた。

◎節電、計画停電

各業種から、「夏の節電対策で顧客は7月、8月の生産を前倒して行っており、当社の5月・6月の売上は対前年比プラスとなったが、7月・8月は大きく割り込むことが予想される」(紙製容器製造業)、「節電対策(15%減)により7~9月の受注量の減少が懸念される。また、円高による輸出関連への影響が出て受注高の値引き以来が来ている」(一般産業用機械・装置製造業)、「節電の意識が強く扇風機やクールマットなどの寝具類に人気が集まっている」(その他の各種商品小売業)、「震災の影響は少なくなってきたものの、売上の不振は続いている。夏の電力使用制限を前に、節電に努めているが、店の照明カットにも限界があり、対策に苦労している」(その他の各種商品小売業)、「今後の計画停電実施の有無によっては大きなマイナスの影響を受ける事になりそうです。前はまだまだ寒い時期でしたが今回は真夏の暑い時期で、営業するに当たり冷蔵冷凍は必須になりますのでたとえ2時間でも停電したらかなり厳しい状況になる可能性があります。また停電による営業時間の変更等により前回同様売上にも大きな影響が出るでしょう」◎受注・売上減少

各業種から、「公共工事の発注も少しずつ増えてきたが入札しても業者数が多く受注には至らず厳しい」(土木工事業)、「震災後の受注が鈍化しています。夏の電力制限の影響も懸念されています」(金属加工機械製造業)、「まだまだ基本的には震災の影響による生産調整が続いているようで製造業としては注文減の流れは消えていない。しかし、生産が仮に正常化したとしても震災前から続いている海外生産・現地調達動きは止めようがないためリーマンショック前の売上水準に達するには根本的な転換が必要である」(その他の金属製品製造業)、「6月は雨の日も多少の営業には差し支えましたがTVで毎日放射能のことについて放送しているとだれもが外出も控えるし飲食のスタート時間も遅くなりお客様の帰りも早い。売上も減少するはず。今年は特にそう思う」(農畜産物・水産物卸売業)、「現状のサービス業(IT関連)は、景気低迷と震災の影響から大手企業設備投資が見送られ、結果、受注が激減と なってます」(ソフトウェア業)などの声が上がってきた。

◎材料高騰

各業種から、「今後数カ月の売上の増加は見込めるものの原材料の値上げによる材料の値上げと建設工事の減少の為の受注競争は厳しく、受注単価も減少、利益率も減少している。震災の影響で遅れていた工事が集中したうえでの増加で景気回復によるものではないと思われ、利益率が悪すぎる現状での借り入れ増加は返済額も増加で不安である。余分な消費を控え少しでも支出を控え自粛した経営しかないと思う」(その他の職別工事業)、「震災の影響による住宅建設の減少着工遅れ。今後の資機材等の価格上昇懸念。工事材料の供給量納期等への影響はほとんどない」(ガス業)、「購入単価(原料費、石油関連製品)の上昇が大きく、現状では採算は不変であるが、この先売上単価に転嫁が難しく採算を圧迫するのではないか」(その他の金属製品製造業)、「材料費の高騰に比べ販売価に反映できない状況が続いています」(その他の機械・同部品製造業)、「うなぎ野菜などの材料が高騰している。飲食店経営の景況感の悪化は依然として底が見えない感じ」(食堂・レストラン)などの声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲28.7	▲12.5	▲30.7	▲38.4	▲27.2
2月	▲36.7	▲20.0	▲28.5	▲50.0	▲38.4
3月	▲49.2	▲42.8	▲33.3	▲58.6	▲50.0
4月	▲44.0	▲38.8	▲37.0	▲59.4	▲37.0
5月	▲37.6	▲32.3	▲28.0	▲48.7	▲36.0
6月	▲33.3	▲26.4	▲30.7	▲60.5	±0.0
見通し	▲24.1	▲17.6	▲34.6	▲39.4	△4.5

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成23年6月の業況についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲33.3(前月水準▲37.6)となり、マイナス幅が△4.3ポイント縮小した。

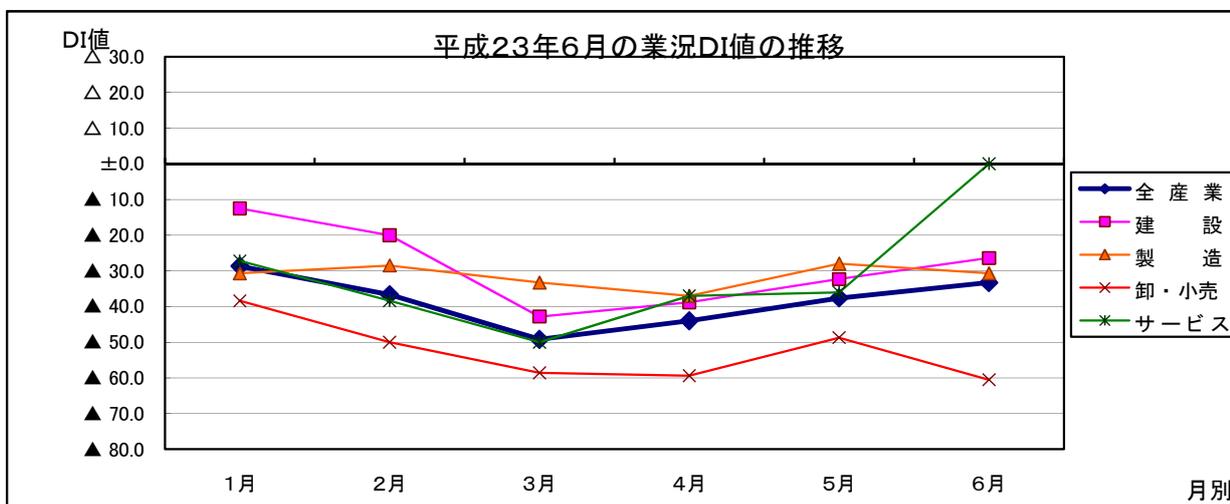
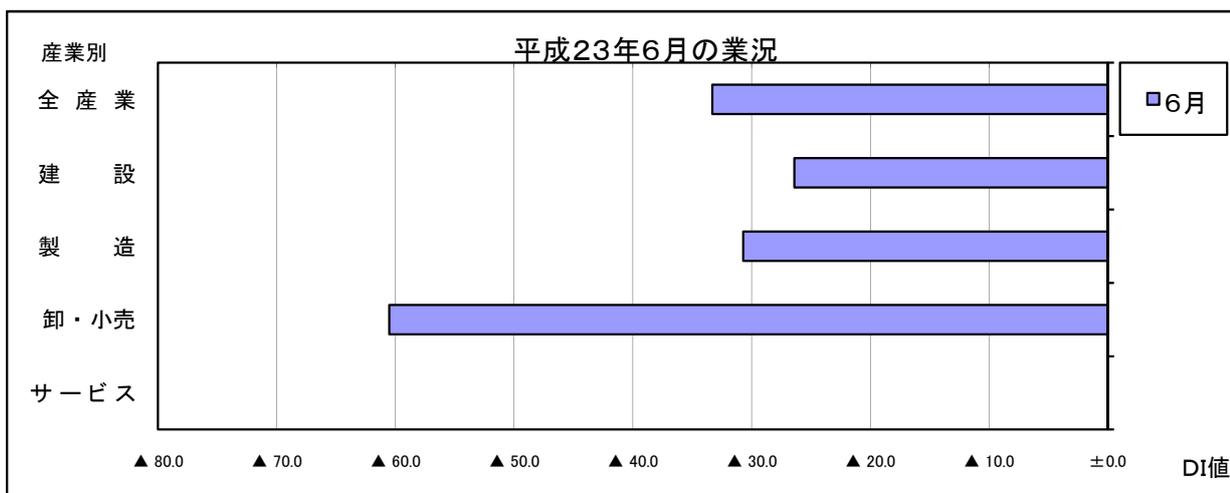
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲36.0)、建設業▲26.4(同▲32.3)である。特に、サービス業はマイナス幅が△36.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲60.5(同▲48.7)、製造業▲30.7(同▲28.0)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.1(前月水準▲28.0)となり、プラスマイナス幅が△3.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△4.5(同▲12.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲17.6(同▲26.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲39.4(同▲36.5)、製造業▲34.6(同▲32.0)である。

平成23年6月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲28.7	▲36.7	▲49.2	▲44.0	▲37.6	▲33.3	▲24.1(▲28.0)
建設	▲12.5	▲20.0	▲42.8	▲38.8	▲32.3	▲26.4	▲17.6(▲26.4)
製造	▲30.7	▲28.5	▲33.3	▲37.0	▲28.0	▲30.7	▲34.6(▲32.0)
卸・小売	▲38.4	▲50.0	▲58.6	▲59.4	▲48.7	▲60.5	▲39.4(▲36.5)
サービス	▲27.2	▲38.4	▲50.0	▲37.0	▲36.0	±0.0	△4.5(▲12.0)



【平成23年6月の売上についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.8(前月水準▲28.0)となり、マイナス幅が△7.2ポイント縮小した。

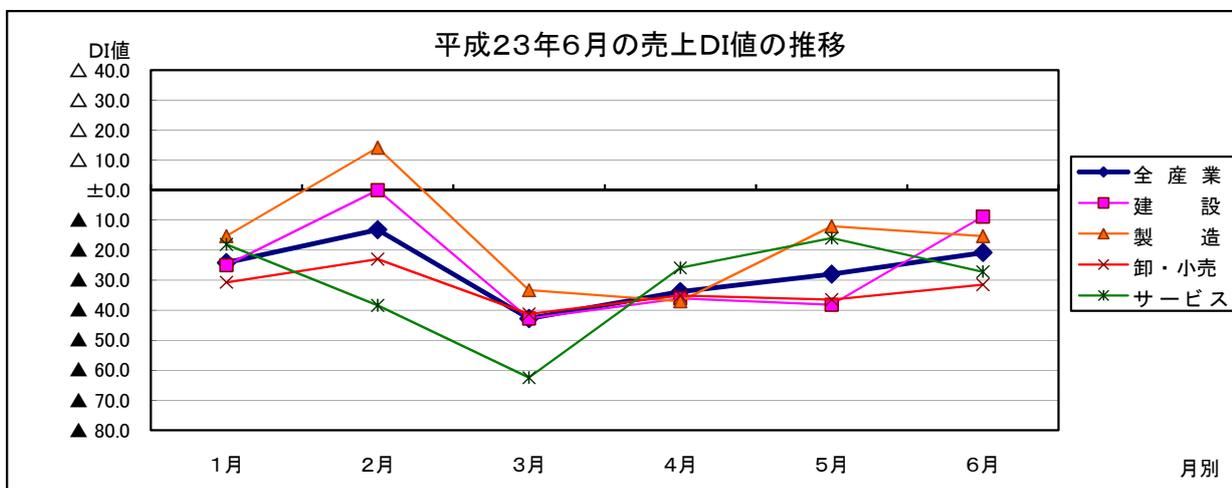
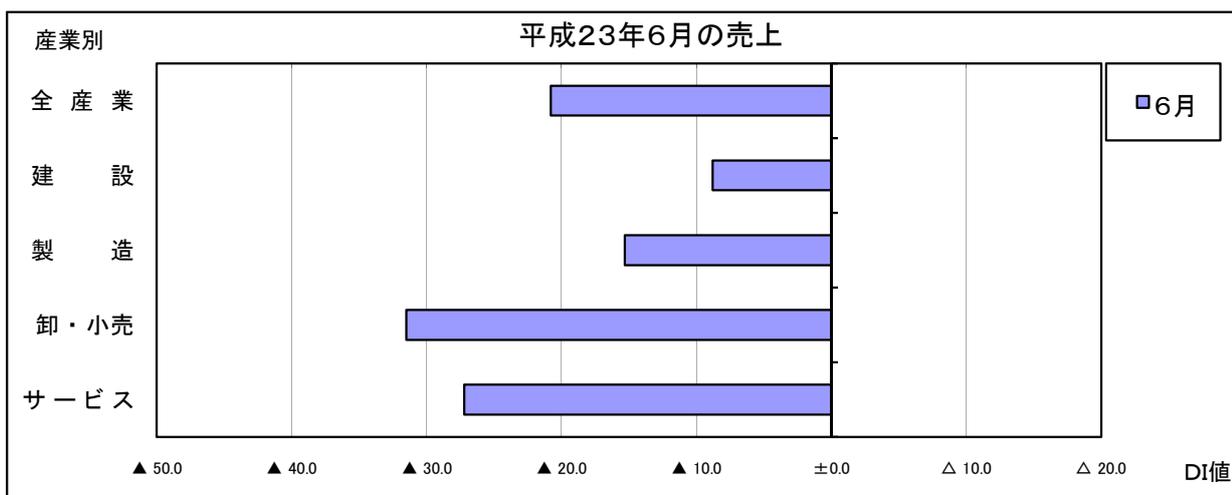
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲8.8(同▲38.2)、卸小売業▲31.5(同▲36.5)である。特に、建設業はマイナス幅が△29.4ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲27.2(同▲16.0)、製造業▲15.3(同▲12.0)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.1(前月水準▲15.2)となり、マイナス幅が▲3.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同▲23.5)であり、マイナス幅が△23.5ポイントと大幅に縮小する見通しである。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲4.5(同△8.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲36.8(同▲17.0)、製造業▲30.7(同▲24.0)である。

平成23年6月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲24.2	▲13.2	▲42.8	▲33.8	▲28.0	▲20.8	▲19.1(▲15.2)
建設	▲25.0	±0.0	▲42.8	▲36.1	▲38.2	▲8.8	±0.0(▲23.5)
製造	▲15.3	△14.2	▲33.3	▲37.0	▲12.0	▲15.3	▲30.7(▲24.0)
卸・小売	▲30.7	▲23.0	▲41.3	▲35.1	▲36.5	▲31.5	▲36.8(▲17.0)
サービス	▲18.1	▲38.4	▲62.5	▲25.9	▲16.0	▲27.2	▲4.5(△8.0)



【平成23年6月の採算についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.1(前月水準▲42.4)となり、マイナス幅が△7.2ポイント縮小した。

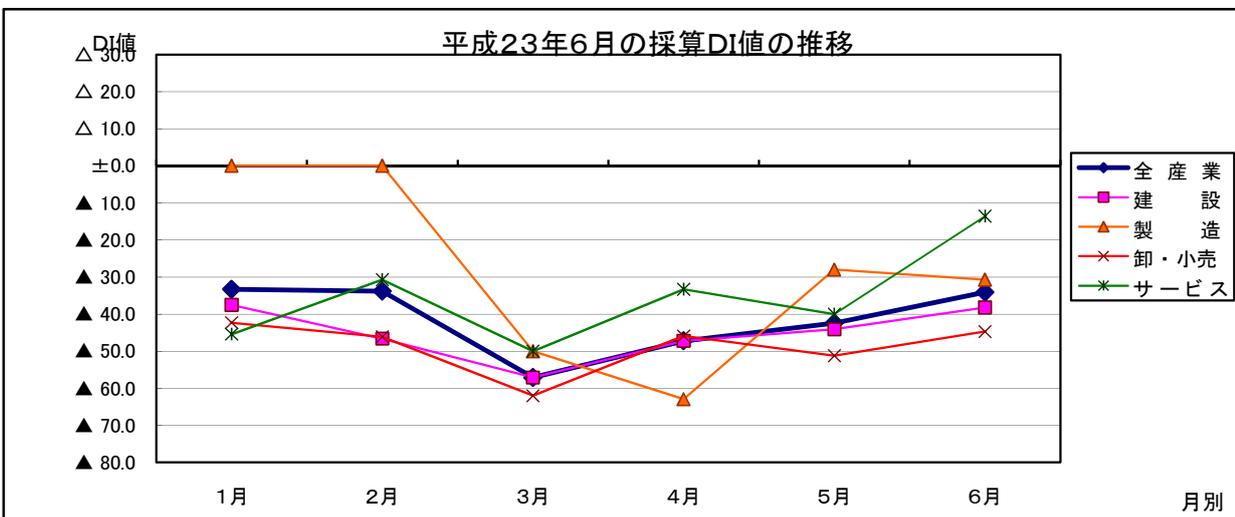
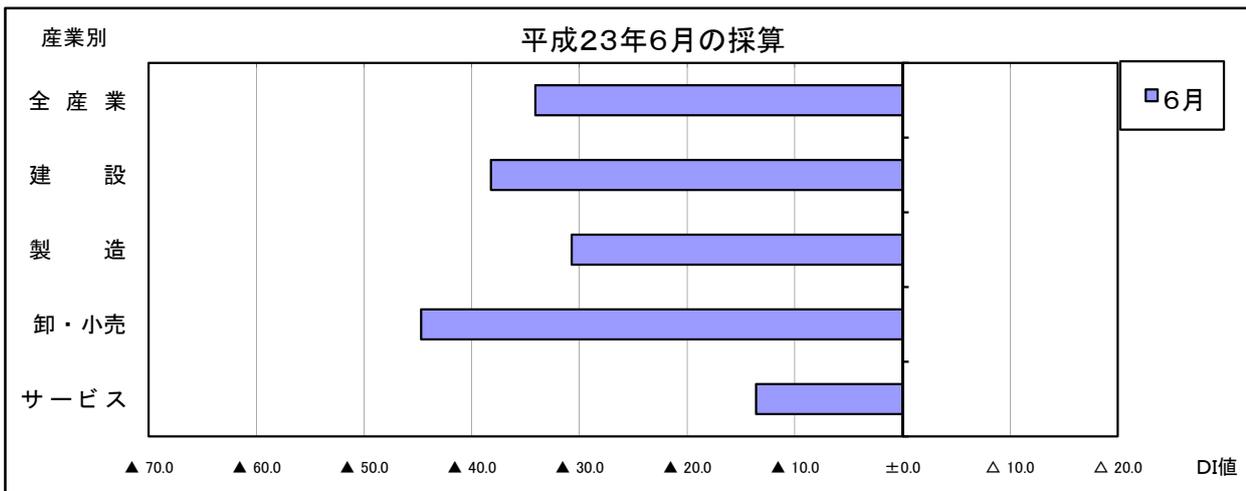
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲13.6(同▲40.0)、卸小売業▲44.7(同▲51.2)、建設業▲38.2(同▲44.1)である。特に、サービス業はマイナス幅が△26.4ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲30.7(同▲28.0)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.6(前月水準▲29.6)となり、マイナス幅が▲2.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲9.0(同▲24.0)、建設業▲23.5(同▲38.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲42.1(同▲24.3)、製造業▲46.1(同▲32.0)である。

平成23年6月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲33.3	▲33.8	▲57.1	▲47.2	▲42.4	▲34.1	▲31.6(▲29.6)
建設	▲37.5	▲46.6	▲57.1	▲47.2	▲44.1	▲38.2	▲23.5(▲38.2)
製造	±0.0	±0.0	▲50.0	▲62.9	▲28.0	▲30.7	▲46.1(▲32.0)
卸・小売	▲42.3	▲46.1	▲62.0	▲45.9	▲51.2	▲44.7	▲42.1(▲24.3)
サービス	▲45.4	▲30.7	▲50.0	▲33.3	▲40.0	▲13.6	▲9.0(▲24.0)



【平成23年6月の仕入単価についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.6(前月水準▲46.4)となり、マイナス幅が△9.8ポイント縮小した。

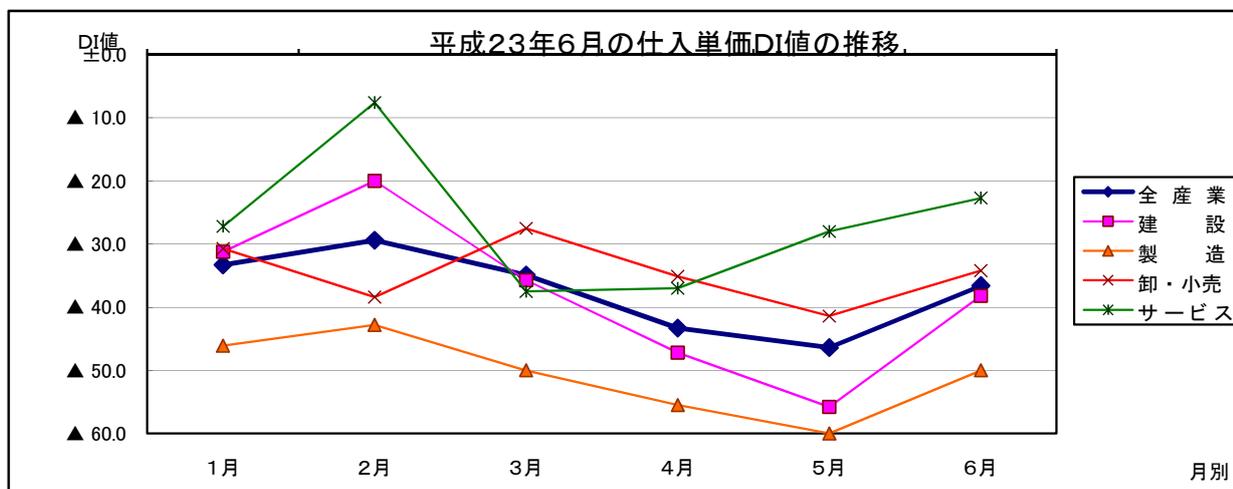
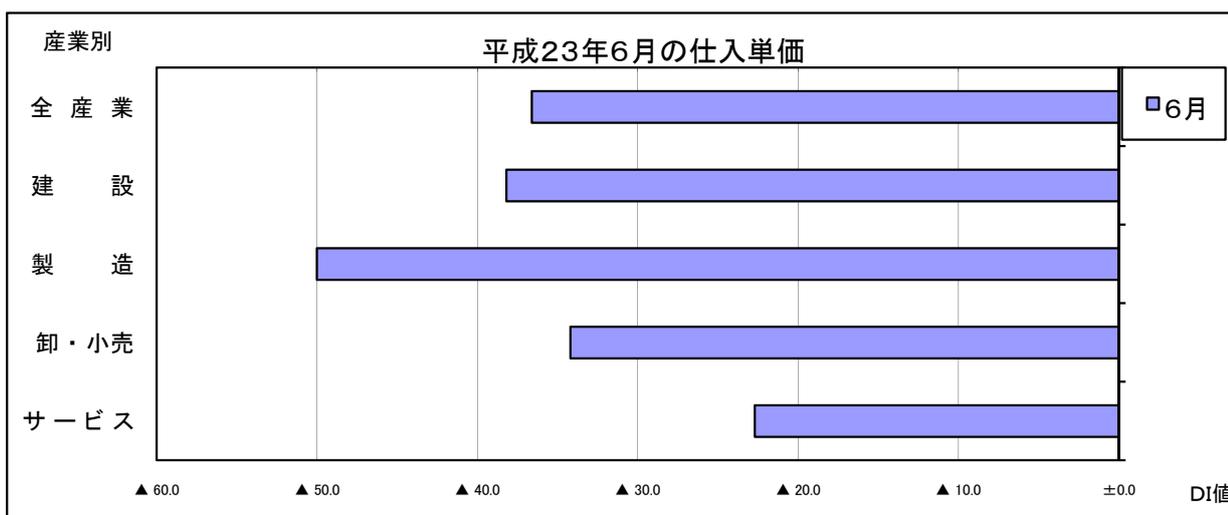
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、建設業▲38.2(同▲55.8)、製造業▲50.0(同▲60.0)、卸小売業▲34.2(同▲41.4)、サービス業▲22.7(同▲28.0)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲35.8(前月水準▲42.4)となり、マイナス幅が△6.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲13.6(同▲44.0)、製造業▲42.3(同▲52.0)、建設業▲38.2(同▲47.0)である。特に、サービス業はマイナス幅が△30.4ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲42.1(同▲31.7)である。

平成23年6月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲33.3	▲29.4	▲34.9	▲43.3	▲46.4	▲36.6	▲35.8(▲42.4)
建設	▲31.2	▲20.0	▲35.7	▲47.2	▲55.8	▲38.2	▲38.2(▲47.0)
製造	▲46.1	▲42.8	▲50.0	▲55.5	▲60.0	▲50.0	▲42.3(▲52.0)
卸・小売	▲30.7	▲38.4	▲27.5	▲35.1	▲41.4	▲34.2	▲42.1(▲31.7)
サービス	▲27.2	▲7.6	▲37.5	▲37.0	▲28.0	▲22.7	▲13.6(▲44.0)



【平成23年6月の従業員についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5. 8(前月水準▲6. 4)となり、マイナス幅が△0. 6ポイント縮小した。

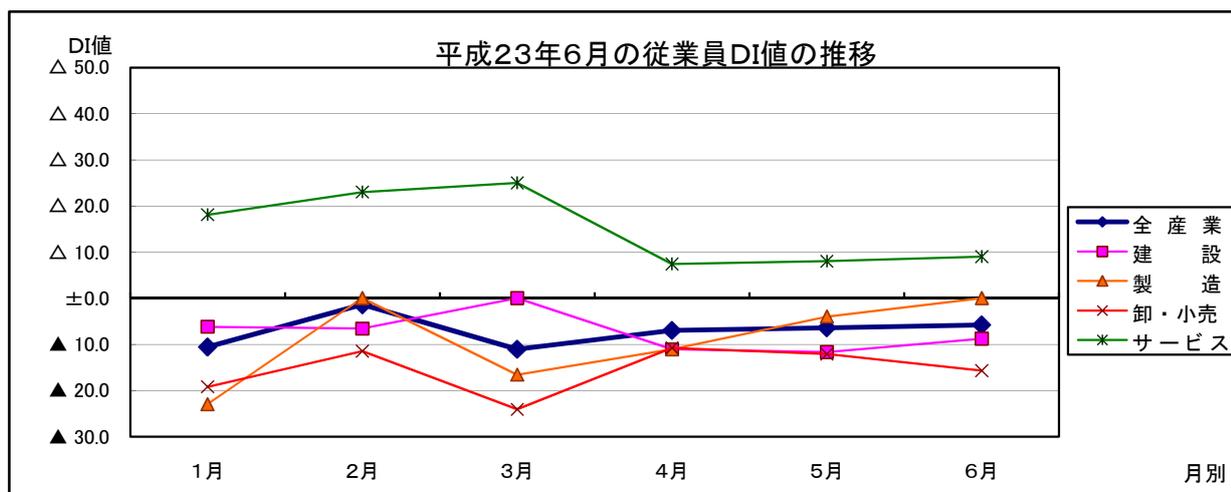
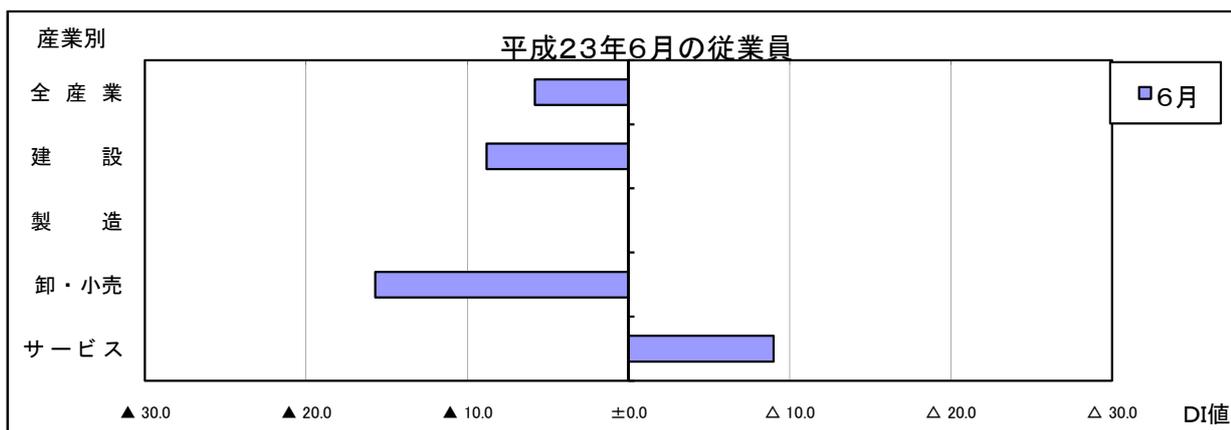
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△9. 0(同△8. 0)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業±0. 0(同▲4. 0)、建設業▲8. 8(同▲11. 7)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲15. 7(同▲12. 1)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5. 8(前月水準▲2. 4)となり、マイナス幅が▲3. 4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲10. 5(同▲12. 1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△13. 6(同△24. 0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11. 5(同▲8. 0)、建設業▲8. 8(同▲5. 8)である。

平成23年6月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲10.6	▲1.4	▲11.1	▲7.0	▲6.4	▲5.8	▲5.8(▲2.4)
建設	▲6.2	▲6.6	±0.0	▲11.1	▲11.7	▲8.8	▲8.8(▲5.8)
製造	▲23.0	±0.0	▲16.6	▲11.1	▲4.0	±0.0	▲11.5(▲8.0)
卸・小売	▲19.2	▲11.5	▲24.1	▲10.8	▲12.1	▲15.7	▲10.5(▲12.1)
サービス	△18.1	△23.0	△25.0	△7.4	△8.0	△9.0	△13.6(△24.0)



【平成23年6月の資金繰りについての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.6(前月水準▲16.0)となり、マイナス幅が▲0.6ポイント拡大した。

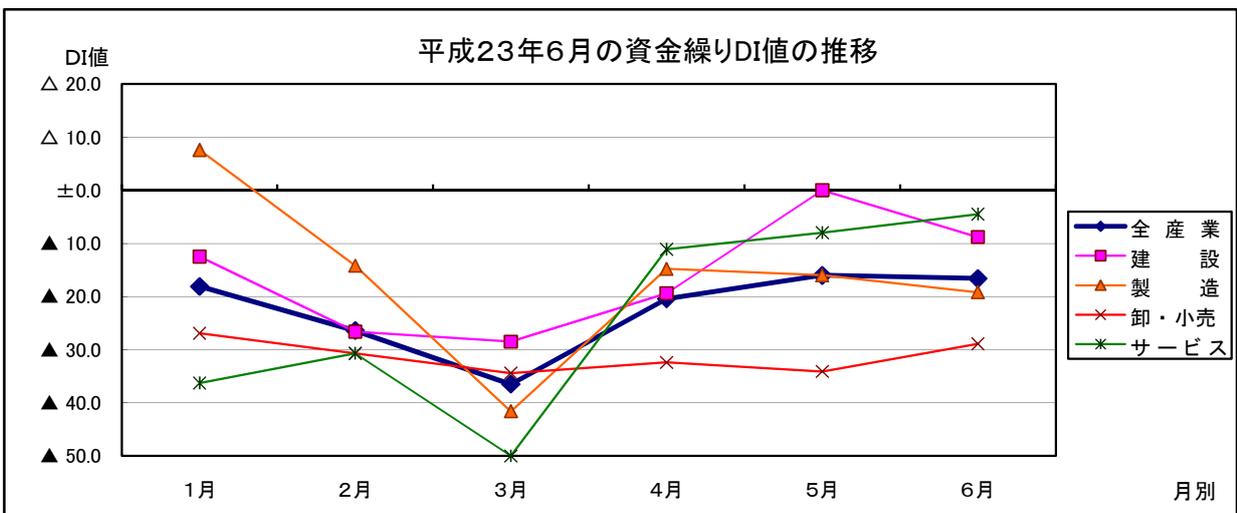
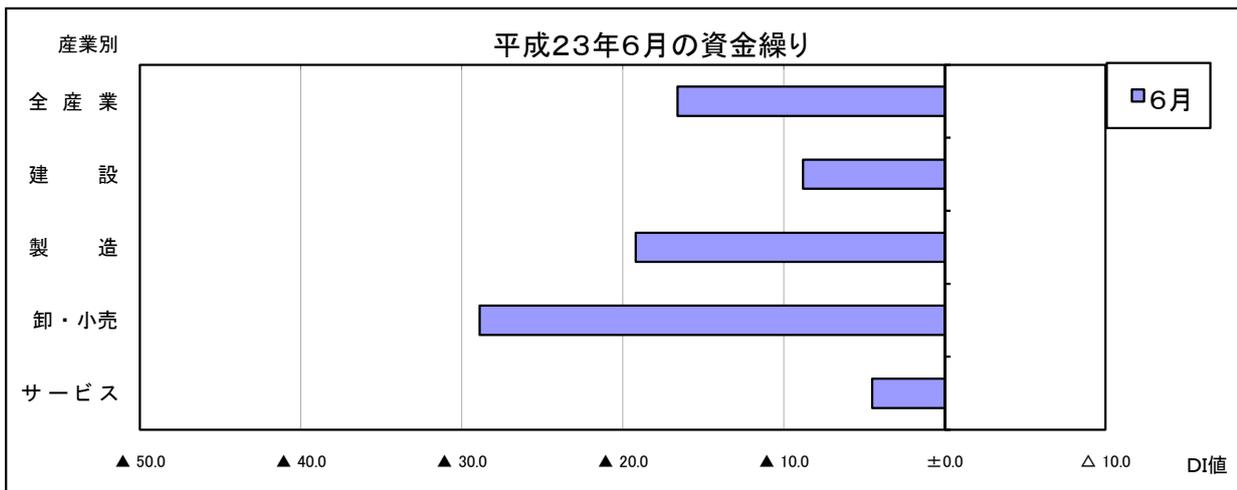
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲28.9(同▲34.1)、サービス業▲4.5(同▲8.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲8.8(同±0.0)、製造業▲19.2(同▲16.0)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.1(前月水準▲16.8)となり、マイナス幅が△2.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲8.0)、卸小売業▲23.6(同▲29.2)、製造業▲26.9(同▲28.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲2.9(同±0.0)である。

平成23年6月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成23年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲18.1	▲26.4	▲36.5	▲20.4	▲16.0	▲16.6	▲14.1(▲16.8)
建設	▲12.5	▲26.6	▲28.5	▲19.4	±0.0	▲8.8	▲2.9(±0.0)
製造	△7.6	▲14.2	▲41.6	▲14.8	▲16.0	▲19.2	▲26.9(▲28.0)
卸・小売	▲26.9	▲30.7	▲34.4	▲32.4	▲34.1	▲28.9	▲23.6(▲29.2)
サービス	▲36.3	▲30.7	▲50.0	▲11.1	▲8.0	▲4.5	±0.0(▲8.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 20.8	▲ 19.1	▲ 34.1	▲ 31.6	▲ 36.6	▲ 35.8	▲ 5.8	▲ 5.8
建設	▲ 8.8	±0.0	▲ 38.2	▲ 23.5	▲ 38.2	▲ 38.2	▲ 8.8	▲ 8.8
製造	▲ 15.3	▲ 30.7	▲ 30.7	▲ 46.1	▲ 50.0	▲ 42.3	±0.0	▲ 11.5
卸・小売	▲ 31.5	▲ 36.8	▲ 44.7	▲ 42.1	▲ 34.2	▲ 42.1	▲ 15.7	▲ 10.5
サービス	▲ 27.2	▲ 4.5	▲ 13.6	▲ 9.0	▲ 22.7	▲ 13.6	△ 9.0	△ 13.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 33.3	▲ 24.1	▲ 16.6	▲ 14.1
建設	▲ 26.4	▲ 17.6	▲ 8.8	▲ 2.9
製造	▲ 30.7	▲ 34.6	▲ 19.2	▲ 26.9
卸・小売	▲ 60.5	▲ 39.4	▲ 28.9	▲ 23.6
サービス	±0.0	△ 4.5	▲ 4.5	±0.0

【平成23年6月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	雇用についてジョブカード制度を利用したいが利用にあたり条件が多すぎハードルが高い	ジョブカード制度	建築工事業
	大震災の影響が無くなりつつあるが、材料の仕入れ等では残っている。震災の復興、原発の不安で消費者は精神的に消費を控えている	仕入困難 原発の不安 消費マインド低下	電気工事業
	特に良い見通しはありません	先行き不透明	一般土木建築工事業
	公共工事の発注も少しずつ増えてきたが入札しても業者数が多く受注には至らず厳しい	公共工事 受注困難	土木工事業
	政治不安による景気の低迷が続き、企業の設備投資の増加が見込まれず、売上の落ち込みが続いている	政治不安 景気低迷 設備投資 売上減少	塗装工事業
	余震が収まり東日本大震災で被害を受けた建物の工事がかなり増えてきた。公共工事でも夏休みの学校関係の工事が集中してきている。	公共工事集中	塗装工事業
	材料不足の為遅れていた現場も材料納入がほぼ平常通りとなり、一気に進行してきた。また、震災による破損のためリフォームもあり、受注は前年6月より増加となった。しかし一方で普通にリフォームを考えていたが近いうちに再度大きな地震が来るかもしれないと延期する現象も起きている。今後数カ月の売上の増加は見込めるものの原材料の値上げによる材料の値上げと建設工事の減少の為の受注競争は厳しく、受注単価も減少、利益率も減少している。今後の売上増加は見込めるものの、震災の影響で遅れていた工事が集中したうえでの増加で景気回復によるものではないと思われ、利益率が悪すぎる現状での借り入れ増加は返済額も増加で不安である。余分な消費を控え少しでも支出を控え自粛した経営しかないと思う	材料不足解消 震災の影響 リフォーム 受注増加 原材料値上げ 受注競争 利益減少 借入増加 自粛経営	その他の職別工事業
	柏市内の分譲住宅は他地区在住の見込み客がホットスポットを理由にキャンセルされる事例が複数出ている	ホットスポット キャンセル	一般土木建築工事業
	震災の影響による住宅建設の減少着工遅れ。今後の資機材等の価格上昇懸念。工事材料の供給量納期等への影響はほとんどない。住宅設備機器の供給については回復基調。	震災の影響 工事減少 着工遅れ 材料価格上昇 設備回復基調	ガス業
	福島原発で忙しい会社から工場製作の仕事が来ている。今年になって地元の仕事が一つも取れません。茨城の業者に人件費等で価格負けし、置小物が少しずつ販売できるようになりました。口コミでお客様がいらして下さり感謝です	原発受注 口コミ	鉄骨鉄筋工事業 内装工事業
	原材料価格は若干下がったが高止まり傾向は変わらない	材料価格高止まり	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	福島原発関連の受注が継続的に増加中。この先は大きな減少になる要因は見受けられない	原発受注	特殊産業用機械
海外、国内旅行者の激減によるお土産関連業界への不況影響が食品業界全体に影響を及ぼしている。	旅行者激減 食品業界不況	その他の機械・同部品製造業	
購入単価(原料費、石油関連製品)の上昇が大きく、現状では採算は不変であるが、この先売上単価に転嫁が難しく採算を圧迫するのではないかと	材料高騰 価格転嫁 採算圧迫	その他の金属製品製造業	
震災後諸物価の値上げや不良債権の発生が悪化を招いている	震災の影響 物価高騰 不良債権	紙製容器製造業	
まだまだ震災の影響は大きく全体の売り上げは減少し続けていますが、震災ボランティアの方に着て頂くベストの印刷受注を頂き、フロック的な仕事も少しずつが入ってきています。このような景気状況ではありませんが、設備投資として屋外耐候性の高い溶剤系の大型インクジェット出力機を導入し、仕事の受注に間に合いました。また頑張っていきます	震災の影響 売上減少 震災受注 設備投資	印刷業	
夏の節電対策で顧客は7月、8月の生産を前倒しで行っており、当社の5月・6月の売上は対前年比プラスとなったが、7月・8月は大きく割り込むことが予想される。また、顧客の広告宣伝や新商品の上市がまだ足踏み状態である。さらに、復興におけるインフラ整備用資材等の動きが非常に少なく、復興施策の実行の遅れを感じる。	節電対策 生産前倒し 市場足踏み 復興の遅れ	紙製容器製造業	

【平成23年6月の業種別業界内トピックス】

製造	震災後の受注が鈍化しています。夏の電力制限の影響も懸念されています。一部得意先でサマータイムの導入が決定し対応を検討中です	震災の影響 受注鈍化 電力使用制限 サマータイム導入	金属加工機械製造業
	まだまだ基本的には震災の影響による生産調整が続いているようで製造業としては注文減の流れは消えていない。しかし、生産が仮に正常化したとしても震災前から続いている海外生産・現地調達動きは止めようがないためリーマンショック前の売上水準に達するには根本的な転換が必要である。誰もこの円高に対して何の策も施さないのであれば日本の製造業は完全に空洞化し、工業製品に関しては、ブランドは日本、生産は中国、という図式が定着するであろう。その図式も韓国のブランドに品質面・価格面で競争力があるかどうかでその先の変化も考えられる。ウォンとドルと円の動きが、政策によってある程度決定されているということならば円高に対して何の関心も持っていない政治家しかいない国はひとり負け状態が定着化するだろう。経済界とのパイプを持たない政権は、財政面に関してはすべて絵に描いた餅になるとしか考えられない。 節電対策(15%減)により7~9月の受注量の減少が懸念される。また、円高による輸出関連への影響が出て受注高の値引き以来が来ている	震災の影響 生産調整 受注減少 海外生産 円高 製造業空洞化	その他の金属製品製造業
	東日本大震災の影響を受けて停滞していた自動車関連が動きだしており、その点からは自動車関連部品の需要が増えると予想される	節電対策 受注減少 円高 輸出への影響 自動車部品需要	一般産業用機械・装置製造業
	震災関係の仕事は納期が短く急ぎで単価も安く、なかなか手が出せない。その他全体的に仕事が少ない 材料費の高騰に比べ販売価に反映できない状況が続いています	仕事量減少 材料高騰 価格転嫁	建築用・建設用金属製品製造業 その他の機械・同部品製造業
	材料の高騰が続き先行きの見通しも厳しい	材料高騰 先行き困難	一般産業用機械・装置製造業
	衣料品はバーゲンに突入した事業所多く、客足は前年並みにもどりつつある。高額商品は苦戦単品単価は下落気味。婦人服業界は弱含み。	バーゲン 客数前年並み 単価下落	婦人・子供服小売業
	依然として個人消費好転ならず、この夏の天候により猛暑であれば悪化、平年並みであればやや好転の兆しあるか？	個人消費不調 天候の影響	時計・眼鏡・光学機械小売業
節電の意識が強く扇風機やクールマットなどの寝具類に人気が集まっている。花火大会が中止となり浴衣の売れ行きは昨年と比べ大幅にダウンすることが予測され、仕入数も大幅に減らした	節電対策 暑さ対策 イベント中止	その他の各種商品小売業	
夏休みの節電の影響がどう出るか 写真展や大いわて展を開催。集客が増加しました。お客様の中でも被災地の復興の手助けになりたいという思いが強く感じられました。これらも功を奏し前年比+6.1%で推移しました。特に宝飾、食料品、美術関係は前年から2ケタ以上の伸長率で推移し好調な結果となりました	節電 イベント開催 集客増加 宝飾品好調	書籍・文房具小売業 百貨店	
節電等消費動向がネガティブになっている。メーカーにおいても新商品を出さないため悪循環の様に思える。余分なものの付加価値のあるものは必要となくなった	節電の影響 消費マインド低下 新商品生産控え	書籍・文房具小売業	
6月度月初は、入店客数・売上共に前年を下回る出足となったが、2週目以降クールビズ商材の実売時期に入り、一気に需要が高まったことに加え、父の日ギフトでも動きがよかったことから、衣料複合が大きく伸長し全体を牽引した。また、夏季節商材や節電商材の動きは依然好調で、中旬までは前年を上回る推移となった。中旬以降、周辺商業施設でセールが開催、18日(土)、19日(日)の週末は高速道路無料化廃止の影響も重なり、売上高は前年並みの推移まで落ち込みをみせた。月末に掛けては接客を強化し、セールの下見客の取り込みなど、売上に繋げていく。	クールビズ商戦 父の日 衣料品好調 夏季商戦 節電商品 セール 高速道路無料化停止 売上下落	その他の各種商品小売業	
震災の影響は少なくなってきている物の、売上の不振は続いている。夏の電力使用制限を前に、節電に努めているが、店の照明カットにも限界があり、対策に苦労している	売上下落 電力使用制限 節電対策	その他の各種商品小売業	
東葛地域、特に柏市はホットスポットと呼ばれる高放射線量が存在する場所です。そのわりに行政のスピード感には憤りを感じます。市民を守るため、また農家や漁師さんの生活を守るための柏の検査基準が必要と感じます。	ホットスポット 行政の対応 風評被害	各種食品小売業	

【平成23年6月の業種別業界内トピックス】

卸小売	<p>柏が放射能のホットスポットのため風評被害でネット販売が0に近い数字です。ニュース等で柏市在住の主婦がガイガーカウンターを持って公園などで測定する映像が放送されるなどしており柏は危ないところと映ってしまいます。このままでは会社自体がおかしくなってしまいます。早く原発の収束をしてほしい</p>	<p>ホットスポット 風評被害</p>	<p>食肉小売業</p>
	<p>今後の計画停電実施の有無によっては大きなマイナスの影響を受ける事になりそうです。前回はまだ寒い時期でしたが今回は真夏の暑い時期で、営業するに当たり冷蔵冷凍は必須になりますのでたとえ2時間でも停電したらかなり厳しい状況になる可能性があります。また停電による営業時間の変更等により前回同様売上にも大きな影響が出るでしょう</p>	<p>計画停電 売上への影響</p>	<p>菓子・パン小売業</p>
	<p>7月1日よりY製パン、並びにSパンの大手が5～10%の値上げがありました。小麦粉は先月半ばより値上がりしましたが、玉子が値下がり(以前が高すぎ)のため売値は変更なしですが、仕入れ先からは、「今上げないと、途中から値上げできない」と言われました。10円、20円の値上げに苦労します。</p>	<p>価格値上げ 材料高騰</p>	<p>菓子・パン小売業</p>
	<p>震災と停電の影響がじわじわとボディーブローの様効いています たばこの値上げが売り上げ増につながっている。たばこをのぞくと対前年比で100%行くか行かないかの水準。利益にはあまり貢献していない。当店では地区平均より競合店の影響もあり3%程度下回って推移している15%の節電が悩みです</p>	<p>計画停電の影響 たばこ値上げ 売上増加</p>	<p>農畜産物・水産物卸売業 その他の各種商品小売業</p>
	<p>6月は雨の日も多少の営業には差し支えましたがTVで毎日放射能のことについて放送しているとだれもが外出も控えるし飲食のスタート時間も遅くなりお客様の帰日も早い。売上も減少するはず。今年は特にそう思う春から夏へ本来取引が活性化するところですが、今年の動きは地震と原発の影響から経営の圧迫感をもたらしています。野菜では品目別に入荷増減、単価安高のばらつきがあり取引上に苦労した販売となっています。相対的に数量取引高は減少にあります。消費者の選択もあり原発の収束を期待します</p>	<p>節電対策 放射能 売上減少</p>	<p>菓子・パン小売業 農畜産物・水産物卸売業</p>
	<p>価格競争がますます激化。販売業はより衰退。工事力のある会社に変化していかないと今後は会社が存続することさえできない時代へ突入していく状況</p>	<p>震災の影響 原発の影響 経営圧迫 青果物取引ばらつき 取引高減少 価格競争激化 販売業衰退</p>	<p>食料・飲料卸売業</p>
	<p>受注が重なり単月では売上等増加した。見通しは4～5月並みであると考えている</p>	<p>受注増加 売上増加</p>	<p>建築材料卸売業</p>
	<p>昨年秋から仕入が急上昇し値上げに踏み切った。表面上の改訂であり価格操作しただけ実際の値上げには成らなかったが、同業他社へかなりの数で移動した。</p>	<p>仕入価格上昇 価格値上げ 客数減少</p>	<p>燃料小売業</p>
	<p>理容業界の先行きの見通しは下落傾向にあり、一部を除けば下落著しいと思います。理容業界の平均年齢の高齢化と後継者問題もあります。また、ディスカウント店等の増加により、お客様の選択の多様化が考えられます。当店では店舗を改装して若いスタッフを採用し、新メニューで対応しています</p>	<p>先行き下降 高齢化 後継者問題 顧客ニーズの多様化</p>	<p>理容業</p>
	<p>前年との比較では売上減少ではあるが経費の全面見直しにより利益が上がるようになる。客単価が下がっています。</p>	<p>売上減少 経費見直し 客単価下落</p>	<p>酒場・ビヤホール</p>
<p>ランチは入るが夜のお客様が少ない。夏の季節料理が出来るので夏の暑さに期待</p>	<p>客数減少 夏季メニュー</p>	<p>食堂・レストラン</p>	
<p>うなぎ野菜などの材料が高騰している。飲食店経営の景況感の悪化は依然として底が見えない感じ</p>	<p>原材料高騰 景況悪化</p>	<p>食堂・レストラン</p>	
<p>放射能による食品に対する不安感を感じる</p>	<p>放射能 食への不安</p>	<p>食堂・レストラン</p>	
<p>宿泊の稼働は戻ったもののインターネット予約が増え一室単価を落とす傾向は変わらず。宴会は企業宴会、会議、セミナーの減少により悪化が続く。夏季の電力カットや計画停電の影響で宴席を控える方も多い。原発の事故により食品(野菜、肉、卵)の値上がり予測される</p>	<p>インターネット予約 単価下落 電力不足 計画停電 食品値上がり</p>	<p>ホテル</p>	
<p>6月は月初めは忙しかったのですが10日を過ぎるとお客の数が減り時間帯が遅くなってきました</p>	<p>客数減少</p>	<p>旅館業</p>	

【平成23年6月の業種別業界内トピックス】

サービス	法人利用は次第に復調傾向にある。昨今柏地域の放射能濃度がTV等で話題となり人通りへの影響が懸念される	法人利用復調 放射能	ホテル
	6月決算で在庫管理の月ですが、7月より値上がりの商品が多数あり、仕入在庫過多と資金繰りが厳しい状況が続きそうです。商品にもよるが平均して10%の値上げ品があります。原発事故によりプールの禁止、海水浴の不安があり、水着等の売上げが鈍い。暑さで飲料水関係は好調。	在庫過多 厳しい資金繰り 価格値上げ 飲料好調	その他の飲食料品小売業
	5月に比べ先行受注が戻ってきた。円高の影響もあり海外旅行が好転。この個人消費の動きを追うように今後法人需要が夏以降に好転してくるものと推察される	受注増加 円高の影響 海外旅行好調 法人需要好転	旅行業
	少し震災の影響が落ち着いてきたようです。お客さまからの問い合わせは減少していますが、企業努力により収益は上昇しています。	企業努力 収益増加	不動産管理業
	夏の電力不足に備えての設備投資が意外にかかった	電力不足 設備投資	不動産賃貸業
	住居用賃貸需要は駅徒歩圏に全て所在があるので手堅く推移している。商業用になると空き室はないが景気に左右されるため県内屈指の商業地域柏であっても上層部のテナントは努力が必要。賃料については今後大きな値崩れ極端なダンピングは起こる事はないと思いますが高止まり家賃の物件についてはテナント撤退等の調整が一部で続くと考えています	住宅需要堅調 テナント撤退	不動産賃貸・管理業
現状のサービス業(IT関連)は、景気低迷と震災の影響から大手企業設備投資が見送られ、結果、受注が激減となっております。ただ、生活に直面するライフ케어・安全など、(携帯端末ソフト)の開発には需要が挙がります(ただ、最新技術の為、スキルが適せず受注に結びつけず、社員育成に注力)先の見通しは私自身も解らず、種まきは常に実施してるが、受注には時間がかかる模様、ただ、確率は60%以上、下期受注にかけて	震災の影響 設備投資 受注激減	ソフトウェア業	

◎節電、計画停電

- 夏^{ナツ}の節電対策で顧客は7月、8月の生産を前倒しで行なっており、当社の5月・6月の売上は対前年比プラスとなったが、7月・8月は大きく割り込むこと^{マイナス} 紙製容器製造業
- 節電対策(15%減)により7~9月の受注量の減少が懸念される。また、円高による輸出関連への影響が出て受注高の値引き以来が来ている 一般産業用機械・装置製造業
- 節電の意識が強^クく扇風機やクールマットなどの寝具類に人気が集まってい^ズ その他の各種商品小売業
- 震災の影響は少なくなってきたものの、売上の不振は続いている。夏の電力使用制限を前に、節電に努めているが、店の照明カットにも限界があり、対策に苦労している その他の各種商品小売業
- 今後の計画停電実施の有無によっては大きなマイナスの影響を受ける事になりそうです。前ははまだ寒い時期でしたが今回は真夏の暑い時期で、営業するに当たり冷蔵冷凍は必須になりますのでたとえ2時間でも停電したらかなり厳しい状況になる可能性があります。また停電による営業時間の変更等により前回同様売上にも大きな影響が出るでしょう 菓子・パン小売業
- 宴会は企業宴会、会議、セミナーの減少により悪化が続く。夏季の電力カットや計画停電の影響で宴席を控える方も多い。原発の事故により食品(野菜、肉、卵)の値上がり^がが予測される ホテル
- 夏の電力不足に備えての設備投資が意外にかかった 不動産賃貸業

◎受注・売上減少

- 公共工事の発注も少しずつ増えてきたが入札しても業者数が多く受注には至らず厳しい 土木工事業
- 震災後の受注が鈍化しています。夏の電力制限の影響も懸念されています 金属加工機械製造業
- まだまだ基本的には震災の影響による生産調整が続いているようで製造業としては注文減の流れは消えていない。しかし、生産が仮に正常化したとしても震災前から続いている海外生産・現地調達の動きは止めようがないためリーマンショック前の売上水準に達するには根本的な転換が必要である。 その他の金属製品製造業
- 6月は雨の日も多少の営業には差し支えましたがTVで毎日放射能のことについて放送しているとだれもが外出も控えるし飲食のスタート時間も遅くなりお客様の帰りも早い。売上も減少するはず。今年は特にそう思う 農畜産物・水産物卸売業
- 現状のサービス業(IT関連)は、景気低迷と震災の影響から大手企業設備投資が見送られ、結果、受注が激減となっています。 ソフトウェア業

◎材料高騰

- 今後数カ月の売上の増加は見込めるものの原材料の値上げによる材料の値上げと建設工事の減少の為の受注競争は厳しく、受注単価も減少、利益率も減少している。震災の影響で遅れていた工事が集中したうえでの増加で景気回復によるものではないと思われ、利益率が悪すぎる現状での借り入れ増加は返済額も増加で不安である。余分な消費を控え少しでも支出を控^制 その他の職別工事業
- 震災の影響による住宅建設の減少着工遅れ。今後の資機材等の価格上昇懸念。工事材料の供給量納期等への影響はほとんどない。 ガス業
- 購入単価(原料費、石油関連製品)の上昇が大きく、現状では採算は不変であるが、この先売上単価に転嫁が難しく採算を圧迫するのではないか その他の金属製品製造業
- 材料費の高騰に比べ販売価に反映できない状況が続いています その他の機械・同部品製造業
- うなぎ野菜などの材料が高騰している。飲食店経営の景況感の悪化は依然として底が見えない感じ 食堂・レストラン

平成23年6月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲33.3に対し、「CCI-LOBO」が▲51.4で、柏の方がマイナス幅が18.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.8に対し、「CCI-LOBO」が▲45.8で、柏の方がマイナス幅が25.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が全て業種で10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.1に対し、「CCI-LOBO」が▲46.1で、柏のほうがマイナス幅が12.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲36.6に対し、「CCI-LOBO」が▲34.4で、柏の方がマイナス幅が2.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.8に対し、「CCI-LOBO」が▲11.4で、柏の方がマイナス幅が5.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業で10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.6に対し、「CCI-LOBO」が▲31.2で、柏の方がマイナス幅が14.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。

平成23年6月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 33.3	 26.4	 30.7	 60.5	 ±0.0
CCI LOBO	 51.4	 52.7	 40.3	 51.0	 59.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 20.8	 8.8	 15.3	 31.5	 27.2
CCI LOBO	 45.8	 50.0	 29.7	 49.0	 53.9

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 34.1	 38.2	 30.7	 44.7	 13.6
CCI LOBO	 46.1	 51.2	 39.7	 42.5	 56.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 36.6	 38.2	 50.0	 34.2	 22.7
CCI LOBO	 34.4	 42.2	 44.8	 26.0	 31.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 5.8	 8.8	 ±0.0	 15.7	 9.0
CCI LOBO	 11.4	 14.0	 14.8	 5.0	 10.3

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.6	 8.8	 19.2	 28.9	 4.5
CCI LOBO	 31.2	 37.9	 28.7	 28.7	 37.6

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(6月速報)

調査期間：平成23年6月16日～22日

調査対象：全国の408商工会議所が2697業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、依然厳しい水準も、先行きには期待感が広がる

6月の全産業合計の業況DIは、51.4(前月比+3.0ポイント)と、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。しかし、回復の勢いは弱く、マイナス40前後で低迷していた震災前の水準にも及んでおらず、依然厳しい状況が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが38.4(今月比+13.0ポイント)と大幅に改善する見通し。部材の調達難解消に伴う生産の本格回復や、節電関連商品の売上増加が見込まれている。しかし、電力の供給不足による生産・営業活動への影響や消費低迷の長期化への不安の声も多い。また、サプライチェーンの寸断を機に、親企業による生産拠点の海外移転が加速しており、産業空洞化に伴う地域経済への影響が懸念される。

【建設業】「公共事業が被災地に集中し、他地域での工事減少につながることを懸念」「(一般事業)」「取引先

の自動車メーカーが7～10月の操業日を変更することに伴い、自社の従業員の休日出勤が増加し、人件費がかさむ見通し」「(管工事業)」「住宅エコポイント制度が7月末で終了するため、駆け込み需要が発生」「(建築事業)

【製造業】「生産体制はフル操業に近い状況、売上も3～4月と比べ急回復している」「(自動車・同附属品製造業)」「7～9月の取引先の休日がまちまちであり、対応に苦慮。各取引先の生産状況に合わせた場合、稼働日数や消費電力の増加が懸念される」「(金属加工機械製造業)」「海外での輸入規制により輸出が停滞。風評被害の影響で商品が全く売れない」「(食料品製造業)」

【卸売業】「大手自動車メーカーが工場の稼働率を上げたため、受注が増加」「(自動車部品卸売業)」「輸入小麦の政府引き渡し価格が1.8%値上がりしたことを受け、小麦粉の仕入価格が上昇しているが、販売価格に転嫁できない」「(食料品卸売業)」「円高により輸入野菜の価格が低下し、厳しい競争

にさらされている」「(農産物卸売業)

【小売業】「クールビズへの意識が高まり、紳士の半袖ワイシャツの売上が対前年比6.5%増と顕著な伸びを見せた」「(百貨店)」「7～9月にかけて、製造業等の休日が土日から平日へ移るため、来客数への影響が心配」「(総合スーパー)」「放射能汚染による米の出来具合や収穫量への影響が心配」「(米穀類卸売業)」

【サービス業】「自粛ムードは払拭されたが、団体客や外国人の宿泊数はまだ震災前の水準に戻っていない。特に外国人客は、原発事故が終息しない限り回復が見込めない」「(旅館)」「風評被害や外食控えの影響で、売上が減少」「(食堂)」「(原材料(燃料価格)は若干値下がりしたものの、また高止まり状態。さらに、高速料金の無料化廃止により経営は厳しい」「(運送業)」

6月のキーワード

キーワード集計及びコメント掲載はございません

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲38.7	▲48.7	▲26.8	▲36.4	▲37.4	▲46.8
2月	▲40.1	▲50.9	▲29.8	▲33.8	▲38.7	▲48.0
3月	▲45.9	▲59.5	▲35.7	▲37.1	▲46.0	▲51.5
4月	▲57.7	▲60.3	▲50.2	▲51.9	▲58.1	▲66.4
5月	▲54.4	▲56.1	▲48.6	▲59.1	▲54.8	▲57.2
6月	▲51.4	▲52.7	▲40.3	▲59.8	▲51.0	▲59.9
見通し	▲38.4	▲45.8	▲27.7	▲46.5	▲38.8	▲41.4

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI